

「あかいわ ART RALLY 2016」が 備前国分寺跡で開催されました！



9月17日から9日間、赤磐市内12か所で、「あかいわ ART RALLY 2016」が開催されました。この事業は2010年から3年おきに開催され、アーティストさんが作った作品を鑑賞するだけでなく、来場者が一緒に参加できるような企画が取り入れられているのが特徴です。

そのうち、備前国分寺跡の会場では、国史跡両宮山古墳の20分の1のスケールで古墳が復元され、ワークショップで制作した「空想の埴輪」を来場者が発掘して楽しむというプロジェクトが開催されました。

両宮山古墳は墳丘の本体だけでおよそ200mあります。20分の1で復元といっても長さは10mもあり、土を搬入するだけで小型のトラックが何十回も往復したそうですよ。



復元された古墳の中には、さまざまな形をした「空想の埴輪」が埋められており、来場者はそれを丁寧に掘り当て、歓声をあげていました。ちなみに、両宮山古墳では埴輪は出土しておらず、どうして埴輪がないのか、謎となっています。(史跡だより第8号参照)



←復元された両宮山古墳
(奥の山が本物の古墳)

↓発掘体験「何かでてきたよ！」



赤磐市歴史まなび講座

「国史跡 熊山遺跡とその周辺」 を開催しました

国に指定されている赤磐市の史跡は備前国分寺跡と両宮山古墳だけではありません。市内東部の熊山山頂にある熊山遺跡も国の史跡です。熊山遺跡は昭和31年(1956)年に指定され、今年で指定60周年を迎えたことから、今年度7～9月にかけて計3回の「赤磐市歴史まなび講座」を開催しました。

階段状のピラミッドを思わせる全国でも特異なこの遺跡はどうしてこのようなかたちになったのでしょうか? 国内や海外の事例もふまえながら、その起源や変遷について興味深い講座となりました。



赤磐市内の石造物について講演された狭川真一先生(元興寺文化財研究所副所長)と熊山遺跡(右)

